

平成 28 年度 中学部の教育

1. 教育の基本方針

(1) 生徒の様子

知的障害をはじめ自閉症などの障害を有し、多様な教育的ニーズをもった生徒が在籍している。日常生活領域では、身辺処理が不十分で援助の必要な生徒、介助や個別対応を要する生徒、ほぼ確立している生徒まで幅が広い。また、健康や安全面の配慮の欠かせない生徒が在籍する。

個々の発達段階が異なることから、言語・コミュニケーションおよび認知学習領域の課題が多様である。一方で、高学年になるにつれて対人意識が高まっており、集団としてのまとまりある仲間関係が育っている。この時期の生徒の特徴として、第二次性徴（思春期）を迎え、心身ともに変化が大きい時期である。

(2) 指導の方針

学校運営方針および学校教育目標を踏まえ、以下の方針に基づく学部運営を行う。

① 生徒の願いを尊重した支援

生徒一人一人を尊重し、本人の願いや思いを大切にした教育を目指す。生徒を指導する際には、敬称（さん）をつけて名前を呼ぶ。

② 自主的・主体的な態度を育むための支援

自主的・主体的に学習参加できるための手だてを工夫し、生徒一人一人が精一杯自分の持てる力を発揮できる学校生活づくりに努める。

③-1 社会・文化への参加を目指した支援

将来の生活（「くらし」「働く」「余暇」）をより豊かにするために必要な力の育成を目指し、生徒の興味・関心を広げる中で地域社会との交流や社会資源等を積極的に活用する。

③-2 生活に即した経験と学習の支援

生活に即した経験や学習の積み重ねを大切にする中で、家庭や地域での生活にいかせる力の育成に努める。

③-3 基礎的・基本的学習内容の確立

中学生段階に応じた学習課題の設定に配慮する中で、身辺自立や基本的生活習慣、基礎的・基本的学習内容の確立および定着を図る。

④-1 人間関係の形成・共に（共同・協同・協働）活動する力の育成を目指した支援

自他の理解を深め、仲間関係を育みながら、共に活動に参加するための基盤となる力を育むための授業づくりに努める。

④-2 生徒の自尊心・自己肯定感・達成感を高める支援

人に褒められたり、認められたりする経験や成功経験を大切にする。また、互いに褒め

合ったり、認め合ったりする生徒相互の関係を大切にする。

⑤ 保護者と連携した学習・生活の支援

保護者との連携を深めながら個別教育計画を作成し、個々のニーズに基づいて学習や家庭での生活を支援する。

(3)教育目標

① 自信を持って主体的に学習や活動に向かう力を育む。

② 実際の生活（「くらし」「働く」「余暇」）に役立つ力を育む。

- ・基礎的・基本的な学習を基盤にしながら、自ら学び、自ら考えて持てる力を発揮したり、問題解決したりする力を育む。
- ・コミュニケーションの力を高め、主体的に表現する力を育む。
- ・体力の向上を図ると共に、生活習慣の確立を目指し、健康的な生活を送る力を育む。
- ・働くことに関心をもち、家庭生活や地域生活に必要な基礎的な力を育む。
- ・家庭や地域での余暇活動を楽しむための技能や態度を育む。
- ・自然・文化的な活動を通して、豊かな情操を育む。

③ お互いを認め合い、協同・協力し合いながら共に学校生活を送る力を育む。

2. 本年度中学部が取り組む重点課題

(1) 自らの「願い」や「思い」を考え、表現する力を高める

- ・「今とこれからの将来」に向けて、自分がしてみたいことを考え、人に伝えることができるように本人の「願い」を育てる。
- ・教科的学習等の学習を自らが選択して積極的に参加できる選択科目を設定する。

(2) 自信をもって主体的に学習に参加する力を高める

- ・学習への参加機会を増やし、多様な評価（自己評価・他者評価・相互評価）による学習の振り返りを重視する。
- ・学校生活全般において、個人の学習を評価する機会と仲間関係を評価する機会を設定する。

(3)-1 基本的な生活習慣の確立を目指す

- ・食事、衣服の着脱、排泄の確立に加え、「身だしなみと整理整頓の確認」を学部全体で取り組む。

(3)-2 自ら学び、考える力を高める

- ・「言語・数量」、「グループ学習」、「選択学習」、「なかま・からだ」における基礎的・基本的な学習活動を通して、「個のニーズ」の実現を目指す。
- ・自らの力で課題に向かい、問題解決できる学習場面の設定に努めます。また、様々な学習場面で自分から報告する機会を設定する。

(3)-3 様々な活動を持続する力を高める

- ・マラソン、サーキット、校外歩行、校外学習（高尾山登山）、陸上大会練習、作業を通して、目標に向かって主体的に活動に取り組む力や集中力、持続力を高める学習機会を設定する。

(4) 友達同士認め合い、協同・協力する力を高める

- ・「生活」、「部集会」、「体育（運動含む）」、「音楽」といった部単位の学習を中心に、仲間関係を育み、互いの力を高め合う学習機会を積極的に設定する。
- ・役割分担や協同活動による学習を積極的に設定し、互いの役割遂行を通して仲間意識を高める。
- ・多様な評価（自己評価・他者評価・相互評価）機会による振り返りの活動を通して、生徒同士が互いに認め合う関係づくりを重視する。

役割分担：それぞれの役割によってひとつの活動を行う。

協同活動：手段Aと手段Bで互いに同じ目標Xの活動を行う。

3. 指導形態と内容

(1) 生活（生活単元学習）

各年齢段階にふさわしい生活意識や態度、より良く問題を解決する力や主体性の育成をねらいとしている総合的な学習である。生活に即した内容を取り上げ自由で創造性あふれる学習活動を展開し、生徒の学校生活を豊かなものにしていく。そのような中で、生活単元学習では、主体的に社会・文化的な活動へ向かう力（「生活に向かう力」）、社会生活（くらし・働く・余暇）を豊かにするために必要な知識、技能、それらを統合し、よりよく問題解決をする力（「知識・技能・問題解決する力」）、他者と関わる力や様々な集団活動に参加する力（「関係の形成と集団参加」）、以上3つの力を育むことをめざしている。

中学部では、小学部段階で育まれた「学級集団」の活動へ主体的に取り組む力を基盤に、「学部・学校集団」へと活動の場を広げる中で、「先輩・後輩を含めた仲間」への意識を高めながら互いの関係を深めることをめざしている。通常は各学級単位で学習するが、内容によっては他学年や学部合同、中高合同学習も行う。

中学部では、これまで仲間関係を育む「生活」の授業に取り組んできた。そこでは、集団で行うゲームの楽しさや縦割りのグループで行った調べ学習や発表活動を通して、仲間への意識を高めてきた。また、これらの活動で「役割」や「振り返り」場面を設定する中で、自他の理解を深めることをめざしている。この他、「生活」では、以下のような生活に結びついた実際的な状況下での指導を行う。

○社会性を育む上で必要なもの（関係の形成と集団参加）

- ・集団生活を送る上で必要なルールやマナー
- ・移動に伴う公共機関（施設等）、交通機関（バス、電車）の利用

- ・金銭感覚を養う上で買い物学習の体験、金銭の学習
 - ・対人関係を育成する上で必要な挨拶返事
- 野菜や花などの栽培学習
- 描画等による行事の振り返りの学習

(2) 作業

作業学習では、働くために必要な知識、技能(「知識・技能」)、経験を積み重ねることにより前に踏み出す力、活動に向かう力、課題に向かう力(「行動する力」)、見通しを持って計画し、考え、工夫する力(「見通し・考える力」)、集団活動への参加、多様な人と一緒に働く力(関係の形成と集団参加)、以上4つの力を身につけることをめざしている。

中学部では、幼少期に身につけてきた力を基盤に、将来の職業生活を見据えて、個のニーズに応じた作業学習に取り組んでいる。特に働くために必要な知識・技能を身につけ、学習に取り組む上での約束や心構えを学び、自分の役割を遂行し、友達と協力して作業に取り組むことで集団活動への参加をめざしている。また作業学習を通して多くの経験をすることで働く楽しさを知ることをねらいとし、さらには本学習で身につけたものを高等部での作業学習に活かしていく。

今年度は、従来の学校内での学習の他に、地域社会との関係を築きながら、社会資源を活用した学習活動に取り組むことも含め、1年生から3年生までの縦割りによる集団の指導形態によって、サービス(園芸・清掃)、クロスワーク(藍染め・スリッパ)、クラフト(タイル他)の3つの作業班を展開する。

(3) 日常生活の指導

日常生活を営むのに必要な身の処理能力や基本的な生活習慣の確立および生活上必要な基本的知識、技能、態度などの育成をめざし、個々に応じて必要な指導を行う。

① 更衣

季節や年齢に応じて衣服を選択し着替える。中学生らしく身だしなみを整え、脱いだ服の整理整頓、ハンガーかけをおこなう。

② 食事(給食)

身支度、準備、手洗いをおこない、衛生面に配慮しながら運搬・配膳をする。道具の適切な選択と扱い方をする。配膳例を確認しながら盛りつけを意識した配膳をおこなう。マナーを守って楽しく食事をする。食べ終わったら残飯の整理を含め後片付けをおこない、歯磨きをする。

③ 排泄

正しい便器の使い方を知り、後始末をおこなう。生理用品の正しい扱い方を身につける。

④ 清潔

清潔感のある服装を心がけ、ハンカチ、ティッシュを携帯して使用する。必要に応じて

洗顔、手洗い、うがいをする。汗をかいた場合には自ら判断して着替えを行う。

⑤ 休み時間の過ごし方

安全に気をつけて仲良く遊ぶ。いろいろな道具を使用したり、活動を経験したりすることにより余暇のレパートリーを増やす。チャイムや時計に注意し、終了のチャイムが鳴ったら道具の後片付けをする。次の活動に備えて準備を行う。

⑥ 支度・整理整頓

授業の準備、片付けを行う。机、ロッカーなど身のまわりの整理整頓をする。自分の持ち物の管理を行う。

⑦ 清掃

場所に合わせた手順、役割、分担を決めて掃除用具を使用して掃除を行う。掃除用具の名称、使い方を身につける。集めたゴミは分別して捨てる。後片付けをして手洗いうがいをする。

⑧ 登下校

交通ルールやマナーを守って乗り物を利用する。また、交通安全に気をつけて歩行する。必要に応じて雨具の準備・片付けを行う。生徒によっては登下校時に家庭へ電話をする。

⑨ 挨拶

声の大きさや相手との距離等を意識して、場面に応じた挨拶をする。

⑩ ルール・マナー

中学生らしい人との接し方、場面(学校、家庭、公共の場)に応じた過ごし方を身につける。

(4) 教科的学習

学部や学年単位の教科的学習に加え、生徒の「願い」を尊重した学習を実現するために、「選択学習」を設定する。生徒は、「国語」、「数学」、「外国語（英語）」、「情報」、「理科」の中から学びたい学習を選択する。また、学習を通して自己理解（ストレングスとウィークネスの理解）や自己肯定感（自分もできるという自信）を高め、他者の良さにも目を向けられるようにする。

①言語・数量（国語・数学：選択科目を含む）

言語・数量では、将来の社会生活に必要な言語や数量などの認知的な理解を深める学習を通して、自己効力感（目標にポジティブに向かう力）や他者と関わる力、様々な集団活動に参加する力を身につけることをめざしている。

中学部では、小学部段階で育まれた言語・数量の基礎的な知識を基盤に、個々の発達段階に応じた学習課題を設定している。主に学級単位で展開し、日常生活で使う言葉の意味の学習および自分の経験や気持ちを言葉にする力や学校・家庭生活の場面で実際に活用できる数や量の概念を養うことをめざしている。

②音 楽

音楽への興味・関心を高め、表現および鑑賞の能力を伸ばす中で、音楽活動への意欲を高める。様々な活動を通して芸術・文化にふれ、音楽を愛好する心情や豊かな音楽性（音楽に対する感性）を培う。また、音楽活動を通して社会性を高め、生活を明るく楽しいものにすることをめざしている。

中学部では、学部集団の中で協力して音楽活動に取り組むこと、音楽的な役割を理解して積極的に参加することを重視し、発表経験を通して認められる経験を積みながら自己肯定感を高めていくことをねらっている。その中で、表現の仕方を学んだり、工夫したりする。さらに音楽を活かして生活や余暇を明るく豊かにするために、好きな音楽を自分で選んで聴いたり、聴く方法を知ったりすることを扱う。また、民謡や伝統文化にふれ、意図的に音楽のジャンルの幅を広げていく。

③造 形

造形では、様々な活動を通して、感覚を活性化し、感性を磨くことで、自分を表現する力を育み、情操を豊かにする中で、「表現」、「技法」および「鑑賞」の能力を養うことをめざしている。

中学部では、小学部段階までに形成された表現と技法を基礎にして、さらに多くの素材・題材の制作を経験することにより、視覚や触覚など感覚の発達を促す。また、自分の思いやイメージを表現するための技法の学習や、友達の作品を見ることや自分と友達の作品を比較することを通して、自分や他者の良いところに気づくことをねらいとしている。指導は、学級単位で展開する。

④体 育

体育では、身体操作性を高め、健康の保持増進と体力の向上を図るとともに、日常生活において、すすんで運動に親しもうとする態度や習慣を育むことをめざしている。また、集団による運動を通して、協調性や集団のルールといった社会性を育む。

中学部では、幼少期で獲得してきた運動を基礎として、自分で体を操作しながら動かす経験を増やすとともに、仲間を意識しながら活動する機会を積極的に作っていきたいと考える。物や自分の体を調整して体を動かす力を高めること、ルールのある活動の中で、体を動かすことをねらいとする。その中で、友達と運動する楽しさや喜び、達成感を味わい、自らすすんで体を動かすことができるようにする。指導は、学部単位で展開する。また、将来を含めて余暇活動の充実、生涯にわたってスポーツ文化を享受することをめざしている。

⑤外国語（選択科目）

外国語の学習では、英語などの外国語に親しむことや外国語の文字に興味をもち簡単な外国語の表現に関心をもつことを通して、外国語や外国への関心を育てることを目指す。中学部では、特に英語や学校見学等で来校する諸外国の母国語に親しんだり、外国人とふれあったりするなど、生徒の生活や体験などと結びつけて指導することを大切にする。

⑥家 庭

家庭では、明るく豊かな家庭生活を営む上で必要な能力を高め、実践的な態度を育てることを通して、卒業後の豊かな生活を見通した以下3つの力を身につけることをめざしている。

- ・衣食住に関する実践的、体験的活動を通じた知識と技能
- ・積み重ねた知識や技能をいかし、快適な生活を送ろうとする態度
- ・学校生活や家庭生活における自分の役割を自覚するとともに、社会生活への関心を高め、その大切さに気づく。

中学部では、小学部段階までに育まれた知識と技能を基盤として、学校生活や家庭生活が快適に過ごせるよう大人や友達と協力して環境を整えるとともに、生活を豊かにする基本的な知識と技能を「衣食住」の3つの柱に添って学習を進める。

指導は、日常生活の指導（健康教育：通称「スマイル」／保健給食部による指導を含む）や「生活」と関連し、学級単位で展開する。

⑦職 業（情 報：選択科目）

将来の社会参加を目指し、働くことに関心をもつ中で、職業生活に必要な基礎的知識と技能について知る。

中学部では、各学習形態及び個のニーズに応じて、ICT ツール（パソコン、タッチパネルディスプレイ、電子黒板、タブレット端末、音声ペンなど）を活用した学習機会を設定している。学習内容は主に以下の4つである。

- ・機器の具体操作：パソコンなどの基本的な使い方を知り、楽しみながら操作をする。
- ・ソフトウェアの活用：ワープロの文字入力や、アプリケーションなどを利用する。
- ・情報収集・活用：インターネットを利用して、情報の収集や選択をする。
- ・情報の取り扱い：ネットワークの安全な利用方法や、ルールおよびマナーを知る（携帯電話の利用を含む）。

また、個の実態において、様々なアシティブ・テクノロジーや AAC（VOCA、音声ペン、サウンドリーダー）などを活用して他者とやりとりをする中で、表現する力を高めたり、将来的に自ら活用したりすることをめざす。

（5）集会活動（特別活動）

「集会活動」は、集団の一員として生活する上で必要な基本的な生活態度（「生活態度」）、

集団生活や学習に意欲的・自主的に取り組むとともに、友達と協力して活動を展開する力（「集団への参加と運営」）、他者と気持ちや目標を共にしながら活動するとともに、自他の存在や行為を認め、お互いに高め合う力（「共有性」）、生活に必要なコミュニケーションの力（「コミュニケーション」）、以上4つの力を育むことをめざしている。

中学部では、以下の内容に取り組んでいる。

① 朝の会、帰りの会

生徒の主体的な進行によって行う活動である。朝の会では、日課の確認以外に個人目標の発表を行い、帰りの会では、1日を振り返る活動の中で、個々に努力したことを相互に認め合う機会を設定している。

② 学級活動

学級の目標や約束、係分担を決めるなど、ルールやマナーを守って学校生活を円滑に送れるようにする。実際の活動を通して仲間意識やクラスへの帰属意識を高める。また学級活動の企画・運営の話し合いを行い、役割を分担したり責任を果たしたりする。

③ 部集会

中学部全学年の生徒が参加して、より大きな集団で活動を行う。学級の代表の生徒を中心に企画・運営する。集団活動のルールやマナーを学び、より多くの仲間と喜びや楽しみを共有する。

④ 合同朝会

毎週月曜日に小学部から高等部までの児童生徒全員の参加による合同朝会が行なわれる。より大きな集団活動の場として位置づけられる。全校による歌やダンス、誕生会や各学部の行事の報告、表彰等が行なわれている。

⑤ 諸行事

全校行事として、入学式、卒業式、運動会、大塚祭。中学部・高等部合同の行事として、スキー合宿。中学部の行事として新入生歓迎会、お別れ会、校外学習（高尾山登山、ふるさと祭、生徒企画、音楽鑑賞会、ボウリング）、陸上大会、修学旅行、その他に学級ごとの校外学習がある。

（6）個のニーズに基づく授業（自立活動：選択科目を含む）

「個のニーズに基づく授業」は、「個のニーズ（個別教育計画の目標）」の実現をめざした学習である。本校における「個のニーズ」とは、幼児児童生徒一人一人の自立と社会参加及びライフスタイルにあった豊かな家庭・地域での生活を支えるために、「将来」や少し

先の「未来」を見通した「本人の願い」の実現に向けてプランさせる「現在の目標」と定義する。また、子どもの自立と社会参加を支える家庭や地域の生活において求められる「支援者のねがい」がこれに含まれる。

中学部では、1年生から3年生までの縦割りによる小集団または個別で行う指導形態によって、「なかま・からだ」、「グループ学習」が設定されている。主に個別教育計画における優先目標に基づき、目標別にグループ編成が検討され、個のニーズに基づいた授業づくりが展開される。なお、グループ編成は年度ごとに検討する。

① なかま・からだ

前年度は、「なかま1」「なかま2」「からだ」の3グループを編成した。指導計画の立案は、すべて個別教育計画の目標に基づくが、学習内容表上は、関係の形成と集団参加領域、コミュニケーション領域、身体・運動領域の学習内容が扱われている。

「なかま」では、人とのかかわりや仲間関係、社会性の課題に重点を置き、2つのグループに分け学習を進めている。「なかま1」では、話し合いや発表、気持ちの学習を通して言葉を用いたよりよいやりとりを学び、「なかま2」では、ボールや積み木、歌や二人三脚など、体や手を動かした様々な活動を通して、友達と楽しみながら共同で活動することを学んでいる。「からだ」では、主に体力や体の調整力、姿勢の保持、気持ちの安定に関する課題に重点を置き、サーキット運動や風船バレー、ダンス、リラクゼーションなどを通じた学習を行っている。また、活動を通して友達に合わせて道具を運ぶといった、共同の活動も取り入れている。

② グループ学習

今年度は、「くらし」「ことば」「コミュニケーション」「操作」の4つのグループで編成される。指導計画の立案は、すべて個別教育計画の目標に基づくが、学習内容表上は、人間関係領域、認知領域、コミュニケーション領域、身体・運動領域の学習内容が扱われている。

「くらし」は（例えば）生活に役立つ金銭等の学習、「ことば」はことばの使い方や補助代替コミュニケーションの学習、「コミュニケーション」は自他の意識や友達の良いところを知るといった自他理解、役割理解などの学習、「操作」は個々の実態に基づく認知学習や身体の動きの学習を扱う。

（7）進路学習

高等部卒業までの6年間で、将来の社会・文化への参加および社会的自立を目指して、計画的、段階的に学習を進めていく。中学部では、生徒一人ひとりのニーズに応じて中学部段階で身につけさせたい力を保護者と連携しながら検討する。また、学校生活全般を通して「はたらく」生活へのつながりを意識しながら学習機会を捉えていく。高等部の現場

実習壮行式、報告会に参加し、さまざまな仕事へのイメージをもつ。さらに、3年生は高等部1年生と合同で卒業後の職業生活を知るために作業所等の進路校外学習を設定している。併せて「はたらく」意義や現場実習等について学習をおこなう。

（8）総合的な学習の時間

「交流および共同学習」、「オリンピック・パラリンピック教育」、「国際教育」の学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、「今とこれからの将来」に向けた社会・文化への主体的な参加姿勢が身に付くことを目指す。

- ① 附属高校交流委員会との交流および共同学習を通して、生徒の経験を広め、主体的に生活に向かう態度を養うとともに、社会性や豊かな人間性を育む。
- ② オリンピック・パラリンピック教育を通して、世界に広がる多様な価値観を育むとともにスポーツに対する愛好的な態度を養う。
- ③ 国際教育を通して、外国の人と共に活動したり、諸外国の自然や文化を学習したりすることによって興味関心を広げ主体的に交流しようとする態度を養う。

（9）その他

①道徳

将来豊かな人生をおくるために、道徳的価値（人間としての生き方・在り方の基盤となるもの）、及び、人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく生きるための道徳的実践力を育成する。学校生活のあらゆる場面で、必要に応じて指導をおこなう。

中学部では、将来豊かな人生をおくるために学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心の育ちをめざしている。取り組んでいる内容としては、基本的な生活習慣や礼儀、ルールやマナーを身に付け、心身の健康増進を図る。自己の役割に責任を持って取り組むことで自尊感情や目標に向かう力を育てる。友達との関わりの中で、互いに励まし合い協力することで、人との関わり方を学習し、思いやりの気持ちを育てる。様々な体験的な学習（校外学習：高尾山登山、スキー合宿など）を通して自然と親しみ触れ合うことで豊かな気持ちを育てる。学習の積み重ねにより、自己の育ちを自信にしていきながら、友達の姿を見て学んだり、共に喜び合ったりすることができるように学習をおこなう。

4. 週時程表

曜日 校時	月	火	水	木	金		
8:30 始業前 9:00	更衣・日課帳 課題別の学習 朝の会						
9:00 朝の運動 9:40	合同朝会 (全校)	↓朝の運動					
		サーキット	マラソン	サーキット	マラソン		
9:50 1 10:30	なかま・からだ	選択学習	選択学習	作 業	1 言・ 数	2 言・ 数	3 言・ 数
10:40 2 11:20		生活	生活		生活		
11:20 3 12:00	グループ 学習	1 言・ 数	2 言・ 数	3 言・ 数	造形 家庭	造形 家庭	
12:05 給食 1:05	給食 食後かたづけ・休憩						
1:10 4 1:50	部集会 ~1:30 更衣・ 帰りの会	音 楽	体 育	作 業	学級活動 ~1:30 更衣・ 帰りの会		
2:00 2:25 5 3:00		そうじ	更衣・課題別の学習・帰りの会				
下校時刻	2:00	3:00	3:00	3:00	2:00		